

プログラム

第1日 6月8日(土)

開会の挨拶 (9:30~9:35)

高田 博行

A会場(百周年記念会館 正堂)

総会 (9:35~11:30)

A会場(百周年記念会館 正堂)

第一部(任意団体日本独文学会第74回総会)

- | | |
|------------------------|------------|
| 1. 会長挨拶 | 清野 智昭 |
| 2. 議長囑任 | |
| 3. 庶務報告 | 田中 愼・室井 禎之 |
| 4. 渉外委員会報告 | 星井 牧子 |
| 5. 会計報告 | 山下 仁 |
| 6. 編集委員会報告 | 川島 隆 |
| 7. 企画報告 | 宮田 眞治 |
| 8. 広報委員会報告 | 岡本 順治 |
| 9. データベース委員会報告 | 成田 節 |
| 10. 文化ゼミナール委員会報告 | 川島建太郎 |
| 11. 語学ゼミナール委員会報告 | 宮下 博幸 |
| 12. 教授法ゼミナール委員会報告 | 太田 達也 |
| 13. ドイツ語教員養成・研修講座報告 | 太田 達也 |
| 14. 研究叢書報告 | 相澤 啓一 |
| 15. ドイツ語教育部会報告 | 新倉真矢子 |
| 16. 支部報告 | |
| 17. アジアゲルマニスト会議実行委員会報告 | 室井 禎之 |

- 議事
1. 2018年度決算書および2019年度予算案について
 2. 会員互選による理事の囑任について
 3. 支部選出理事の囑任について
 4. 監事の囑任について

5. 一般社団法人日本独文学会への移行について
会員意見開陳

第二部（一般社団法人日本独文学会理事会）

- 議事 1. 社員の受け入れについて

第三部（一般社団法人日本独文学会社員総会）

- 議事 1. 任意団体日本独文学会の事業の継続について
2. 理事の嘱任について
3. 監事の嘱任について

日本独文学会賞授賞式（11:40～12:10）

A 会場（百周年記念会館 正堂）

ドイツ語学文学振興会賞授賞式・総会（12:15～13:15）

A 会場

招待講演（13:20～14:20）

A 会場

ディートマー・レスラー氏（ギーセン大学教授）

Prof. Dr. Dietmar Rösler (Justus-Liebig-Universität Gießen)

**Zu Risiken und Nebenwirkungen fragen Sie lieber Ihren lokalen Didaktiker -
globale Methoden und Prinzipien der Fremdsprachenvermittlung und die Vielfalt
des Lehrens und Lernens vor Ort.**

ドイツ語教育部会総会

B 会場（北 2-大会議室）

総会（12:20～12:50）

シンポジウム I (14:30～17:30)

B 会場 (北 2-大会議室)

インクルーシブ教育と外国語教育

Inklusive Bildung und Fremdsprachenunterricht

司会: 草本 晶

- | | |
|---------------------------------|-------|
| 1. インクルーシブ教育とドイツ語教育の現場 | 齊藤 公輔 |
| 2. 多様な学生との共生を前提とした教育組織の構築 | 山路 朝彦 |
| 3. 英語教育のユニバーサルデザイン実現に向けた課題 | 村上加代子 |
| 4. 韓国語教育におけるインクルージョンをいかに実現していくか | 中川 正臣 |

シンポジウム II (14:30～17:30)

C 会場 (西 2-201 教室)

ロマン派における「遊戯／劇 (Spiel)」の理念とその表現

Die Idee des Spiels und deren Darstellung in der deutschen Romantik

司会: 岡本 和子

- | | |
|---|-------|
| 1. 「神も、自然も遊戯するのではないか？」—ノヴァーリスにおけるシラーの遊戯概念の受容 | 高橋 優 |
| 2. 絵画芸術として並ぶ「断章集」—フリードリヒ・シュレーゲルによる〈遊戯〉の実践として | 二藤 拓人 |
| 3. ロマン派による喜劇の試みとその射程—クレメンス・ブレンターノ『ボンセ・デ・レオン』をめぐって | 岡本 和子 |
| 4. 『ブランビラ姫』におけるホフマンの遊戯概念—演技・戦い・聖なる祭りの再生 | 土屋 京子 |
| 5. 「民衆とは遊び場であった」—Spiel 概念の変容とアイヒェンドルフのフォルク観 | 須藤 秀平 |

口頭発表：文学 I (14:30~17:45)

D 会場 (西 2-301 教室)

司会：鎌倉 澄／遠藤 浩介

1. Thomas Bernhard in der Schule - Ein Machtkampf zwischen Schule und Literatur
Atsushi Imai
2. ヴァルター・ベンヤミンとゲルショム・ショーレムにおける「嘆き」のモ
ティーフ 小林 哲也
3. アーダルベルト・シュティフターの自伝的断片における光と闇
出縄 祐介
4. ムージル『特性のない男』における兄妹愛の行方—1920年代前半に書かれ
た「少佐夫人の物語」の草稿 „s₃+9“ を手がかりに 白坂 彩乃
5. 深淵の詩学—ツェランとバッハマン 國重 裕

シンポジウム III (14:30~17:30)

E 会場 (西 2-302 教室)

時事劇と寓意劇のあいだ—Rieser 時代から Wälterlin 時代のチューリヒ劇場
Zwischen Zeitstück und Parabel — Das Schauspielhaus Zürich in
der Rieser- und Wälterlin-Ära

司会：葉柳 和則

1. Los von Berlin?—チューリヒ劇場とベルリン演劇 市川 明
2. 『月は沈みぬ』チューリヒ上演のインパクト—ドイツ語版台本をてがかり
に 葉柳 和則
3. アルカディアとしてのスイス 中村 靖子
4. 寓意劇としての『聖書に曰く』—ヴェルターリン時代のデュレンマツト
増本 浩子
5. 意味にあらがう寓意劇—マックス・フリッシュ『ピーダーマンと放火犯た
ち』 松鶴 功記

口頭発表：語学 (14:30～16:25)

F 会場 (西 2-401 教室)

司会：平井 敏雄／田中 雅敏

1. モーツァルト家の人びとが書簡に書き綴ったドイツ語—私的空間における標準語と方言の競合 佐藤 恵
2. 現代ドイツ語における接尾辞の生産性と文体差について：コーパスに基づく計量的概観 今道 晴彦
3. オットフリートの『福音書』における古高ドイツ語動詞接頭辞 gi- について 野添 聡

シンポジウム IV (14:30～17:30)

G 会場 (西 2-402 教室)

Gefühlsunordnungen: Heinrich von Kleist und
die romantische Ökonomie der Affekte

Moderator: Thomas Pekar

1. Der amouröse Diskurs in Kleists *Penthesilea* Yixu Lu
2. „Begierde und Angst“. Die Abjektion gegen Hybridität in Kleists Haiti-Novelle Thomas Schwarz
3. Rechtgefühl und Gewalteskalation in Kleists *Michael Kohlhaas* Arne Klawitter
4. Das Paradies als paradoxe Strukturformel in Kleists Novelle *Das Erdbeben in Chili* Thomas Pekar
5. Der unkontrollierbare Gewaltausbruch der elektrisch aufgeladenen Nation. Die Affektmanipulation und der Zufall in Kleists politischen Texten Hirosuke Tachibana

口頭発表：文学 II / 文化・社会 (14:30～17:45)

H 会場 (西 2-501 教室)

司会：荒井 泰／木村 裕一

1. 第二次世界大戦中のドイツ軍兵士の読書について 竹岡 健一
2. 日本とドイツの学問的伝統の複合性—カール・フローレンツ『日本文学史』
における「文化」の発展段階説 馬場 大介
3. 可視化される無限性—フリードリヒ・シュレーゲル『ルツインデ』におけ
る図像性の表れ 高次 裕
4. H.v. ホフマンスタール台本/R. シュトラウス作曲のオペラにおけるズボン
役—モデルネから保守へ 関根 裕子
5. Gesellschaft und Alltag in Prosa - DDR Literatur als zeitgenössische Quelle für
Alltagskultur Maria Büttner

ポスター発表 (13:00~14:30)

(ポスターは期間中を通じて掲出されています)

I 会場

I 会場 (その 1) (西 2-303 教室横 多目的スペース)

- Nutzung der Zielsprache über Facebook von Deutsch- und Japanischlernenden
Axel Harting
- Untersuchung zu den Ursachen der Angst vor Fehlern japanischer Studierender
beim Fremdsprachenstudium Marco Schulze
- Was sollen die Studierenden am Ende des Grundstudiums können? - Meinungen
(Beliefs) von Deutschlehrenden an japanischen Universitäten
Elvira Bachmaier

I 会場 (その 2) (西 2-403 教室横 多目的スペース)

- Was macht eine gute Lernergrammatik aus? Japanische und deutsche
Lernergrammatiken im kritischen Vergleich Nina Kanematsu
- Deutsche Sprache und Kultur im außerschulischen Kontext in Japan — eine
Fallstudie Maria Bloedel

ブース発表 I (14:00~15:30)
(ブース発表は途中での出入り自由です)
J会場 (西 2-406 教室)

Innovation für die Ausbildung der Deutschlehrenden: Das DAAD-Projekt Dhoch3
Julia Weber, Manuela Sato-Prinz

ブース発表 II (16:00~17:30)
(ブース発表は途中での出入り自由です)
J会場 (西 2-406 教室)

南チロルにおけるイタリア語系学校の CLIL を用いたドイツ語教育
ードイツ語系学校におけるイタリア語教育との比較において
小川 敦, 境 一三, 大澤麻里子

ドイツ語教育部会
「大学ドイツ語入試問題検討委員会」展示・発表 (13:00~17:30)
K会場 (西 2-306 教室)

懇親会 (18:00~20:00)

会場 百周年記念会館 3 階小講堂
会費 6,000 円
(学生, 常勤職のない会員は 4,000 円)

第2日 6月9日(日)

口頭発表：ドイツ語教育(10:00~11:55)

D会場(西2-301教室)

司会：Thomas Pekar／高瀬 誠

1. Meditation — Einsatzmöglichkeiten und Erfahrungen im Fremdsprachenunterricht Luisa Zeilhofer
2. 留学期間における学習者のドイツ語習得を定動詞の位置から考える：縦断的調査の結果より 星井 牧子
3. Englisch als Hilfe zu DaF. Grenzen des vorhandenen Materials Frank Nickel

シンポジウム V (10:00~13:00)

E会場(西2-302教室)

フラグメントの諸相—文化的実践としての

Fragmentarität als Kulturpraxis

司会：前田 佳一

1. 「歴史」の断片—ドイツ中世英雄叙事詩のフラグメント性 山本 潤
2. 18世紀末の書籍・雑誌文化とフラグメント美学との関連性—フリードリヒ・シュレーゲルのアテネウム期以前のテキストを手掛かりに 二藤 拓人
3. 写真的断片の彼方—クラカウアー「写真」論の理論的・文化史的読解 深澤 一輝
4. zer...zer...—トーマス・バルンハルト『アムラス』のフラグメント性 金 志成
5. 損傷した物語—ゲアハルト・フリッチュ『ファッシング』における断片性の詩学 前田 佳一

シンポジウム VI (10:00~13:00)

F 会場 (西 2-401 教室)

統語と意味のインターフェイスをめぐって—カートグラフィーの射程
Schnittstelle der Syntax und Semantik: Reichweite der Kartographie

司会: 森 芳樹

- | | |
|--|-------|
| 1. ドイツ語の事実性補文の統語構造 | 伊藤 克将 |
| 2. ドイツ語の分裂文における人称代名詞と語順の統語構造 | 山崎 祐人 |
| 3. PP と CP の並行性の観点から分析する動詞と方向を表す PP の一体性 | 藤井 俊吾 |
| 4. 半法助動詞としての drohen の意味解釈 | 岡野 伸哉 |

シンポジウム VII (10:00~13:00)

G 会場 (西 2-402 教室)

創作システムとしての翻訳
Übersetzung als kreatives System

司会: 新本 史斉

- | | |
|---|-------|
| 1. 複数言語による創作と、遍在し増殖する翻訳 | 松永 美穂 |
| 2. 私はパラサイトだった—H・ミュラーと O・パステイオールにおける寄生的翻訳と強迫神経症的読解 | 山本 浩司 |
| 3. 並列, 並行, 反復—言語の複数性と作家の固有性の交差から生まれる創作システム | 新本 史斉 |
| 4. 多和田葉子の自作翻訳『雪のエチュード (Etüden im Schnee)』に関する一考察 | 齋藤由美子 |
| 5. 古井由吉における翻訳と創作 | 関口 裕昭 |

シンポジウム VIII (10:00~13:00)

H 会場 (西 2-501 教室)

国民国家と「村物語」—19 世紀後半のドイツ語圏文学および
イタリア文学をめぐる地理的想像力

**Nationalstaaten und „Dorfgeschichten“. Geographische Imaginationen der
deutschsprachigen und italienischen Literatur im späten 19. Jahrhundert**

司会: 七字 眞明

1. 「鉄道沿いの村」への帰郷—ベルトルト・アウエルバッハの「村物語」と
「美化」の閉域 西尾 宇広
2. ガリツィアと農民問題—エープナー=エッセンバッハ『村と館の物語』
麻生 陽子
3. スイス, ポーランド, イタリア—ゴットフリート・ケラー『馬子にも衣装』
における共生形態の模索 磯崎康太郎
4. 地方の現実を「標準語」で自然に語る—ヴェルガ『マラヴォリア家の人々』
の表現技法 霜田 洋祐

ポスター発表 (10:00~13:00)

(ポスターは期間中を通じて掲出されています)

I 会場 (西 2-303 教室および西 2-403 教室横, 多目的スペース)

ドイツ語教育部会

「大学ドイツ語入試問題検討委員会」展示・発表 (10:00~12:00)

K 会場 (西 2-306 教室)

閉会の挨拶 (13:05~13:10)

E 会場 (西 2-302 教室)

大貫 敦子

研究発表会期間中，上記のプログラムに加えて，書店・出版社等による書籍展示が行われます。